

道徳の時間 「だれのためのプロフィール」

2年生に進級すると、自分も仲間も新しい学級が新鮮で、ラインへの書き込みの量はすごかった。だれがどこの組にいるのか、だれとだれが同じ組なのか、自分の学級の先生のこと、つまりどの教科は大変そうで、その教科で楽できそうか、どこの部活動にどんな後輩が入ってきたのか、

しかしある程度時が経つと、1年生の時と変わらない部分の方が気になってくる。学級での係活動や委員会、各種集会や行事、週番に日直、そうじ…。「なんだ、また去年とおんなじか。ま、そりゃそうだ…。でもそれを3年生でもう1回やるわけ？」だれもが一度は心の中でつぶやいたことがあるんじゃないだろうか。そうなる目新しそうなこと、面白おかしそうなことをついつい探してみたくなる。去年、職場体験学習はなかったが、さして関心のある仕事もない優那にとっては、様々な準備がわずらわしいと感じていた。特に事業所で手渡しするプロフィールカードだ。

今週もまた水曜なので塾にやって来たが、何だかいつもより楽しそうにみんながしゃべっている。

「何だ？ どうした？ 凜ちゃん、何盛り上がってんの？」

「お、優那。これこれ。だーれだ？」

「だれ、これ？ 1年？ 2年？」

「来月、入ってるくよ。田中実だってさ。」

「ここ？」

「学校、学校。あんたの。」

「えー？ なんでわかんの？」

凜の話によれば、サッカーのクラブチームつながりで、翔太がかなり離れたA市のB校の仲間から得た情報らしい。みんなが手にしているスマホに顔写真が出ている。どこからなのか正面写真だ。まじめっぽい、髪型が変、芸人の誰かに似ている、何を趣味にしてそうか等、好きなことを言っているみんなが笑っていたが、優那は単語テストが始まったらそんなこと自体、すっかり忘れてしまった。

「こちらF組の新しい仲間、田中実君です。おうちの都合で引っ越してきたばかりで、しばらくは早退や欠席があるそうですが、授業の内容や明日の連絡など、いろいろ教えてあげてください。せっかく新しい学校へ来たから、きちんと自己紹介をして、新しいことに挑戦したいんだそうさ。」職場体験学習の事前訪問が迫ったある日のこと、担任の鈴木先生の転校生紹介で学級が小声でざわめいた。「ぼーずになんか変わったぜ、坊主頭。」「神経質そう…。」「目、こわーい。」

「えー、職場では初対面の人には名刺をわたします。こんなに小さなものであっても、こうね、両手でわたすし、もらう方も両手ね。なんででしょうね、こうね、小さな紙切れなのに。」授業が始まったが、学級はまだ少しばかりのざわつきがある。

「さ、みなさんのプロフィールカード、どんな意味があるんでしょうか。そもそもなんで必要なんですかね。」

ぼうっとしていた優那は、はっとして鈴木先生の顔を見たのだった。